

※検討途上の整理

「流域委員会提示の指標」欄のA・B・C・Dは、それぞれ次の事項を表す。  
 D：進め方の確認内容と思われる等主旨が不明確なもの  
 C：指標として具体性を今後もたせる必要があると思われるもの  
 B：現在保有していないまたは、今後測定の手配のないデータと思われるもの  
 A：特に問題はないと思われるもの

第84回淀川水系流域委員会  
 平成21年3月16日（月）  
 河川管理者資料

施策項目	評価項目	具体的な点検事項の例	点検シートに記述する内容	流域委員会提示の指標
人と川とのつながり	1. 日常からの川と人のつながりの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民参加推進プログラムの作成、実践状況</li> <li>淀川水系に関わる住民・住民団体（NPO等）との連携状況</li> <li>河川レンジャーの充実状況</li> <li>子ども達の関わりを促進する取り組みの実施状況</li> <li>淀川に関する日頃の情報発信の促進状況</li> <li>小径（散策路）、「歴史文化の薫る散歩道（仮称）」の整備状況</li> <li>憩い、安らげる河川を目指した河川事業の実施状況</li> <li>三川合流部の整備状況</li> <li>良好な水辺まちづくりに資する河川事業の実施状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民参加プログラムの作成状況</li> <li>住民、住民団体との交流回数</li> <li>レンジャー活動数、参加人数</li> <li>子供を対象とした環境教育等の実施回数、子供の参加人数</li> <li>H.P、携帯サイトへのアクセス数</li> <li>小径（散策路）の整備延長</li> <li>整備箇所数</li> <li>三川合流部交流拠点の整備状況</li> <li>緩傾斜堤防、高規格堤防の整備地区、延長</li> </ul>	視点9：「住民参加推進プログラム」の策定に取り組んだかP D 指標10-1公募、選任は適正に行われているか D 指標10-2河川管理者のレンジャーへの対応は中立性が保たれているか C 指標10-3住民・行政との相互学習の場となっているか 視点11：諸委員会・協議会等への住民参加（・連携）は進んでいるかP D 指標12-1住民の無関心、無関係意識 B 指標12-2住民は無知、行政は無謬という意識 C 指標12-3行政の住民を受け入れる体制の不整備 D 指標12-4行政、関係機関、事業の人的・時間的・予算などの余裕の不足 C 指標12-5情報提供の不足、情報共有の欠如 D 指標12-6参加・協働の技術の不足（参加のデザインの未熟） D 指標12-7対話の場やしぐみ（空間・ソフト・ハード・コーディネータなど）の欠如 D 指標12-8参加・協働のしぐみ、ルールの不在
	2. 洪水・災害時の人と川とのつながりの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携促進のための活動状況</li> <li>様々な媒体による防災情報の発信状況</li> <li>「まるごとまちごとハザードマップ」等の分かり易い情報発信状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水害に強いまちづくり協議会実施状況</li> <li>ハザードマップの作成状況</li> <li>まるごとまちごとHMの実施市町村数</li> <li>水防拠点、防災ステーションの整備状況</li> <li>水害に強いまちづくり協議会実施状況</li> <li>災害対応プログラムの作成状況</li> </ul>	
	3. 上下流の連携の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>水源地域ビジョンの推進状況</li> <li>上下流交流を促進するための活動状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水源地域ビジョン策定とその後の活動状況</li> <li>交流実施状況</li> </ul>	
河川環境	4. 多様な生態系を有する淀川水系の再生と次世代への継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>生息・生育・繁殖環境の保全・再生の実施状況</li> <li>琵琶湖南湖の再生を目指した取り組み状況</li> <li>樹林地等の保全と河道内の計画的な管理状況</li> <li>ダム貯水池斜面景観対策の取り組み状況</li> <li>河川景観対策の取り組み状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンド、たまりの整備</li> <li>イタセンバラの確認数（モニタリング調査）</li> <li>南湖の再生プロジェクト連携状況</li> <li>セタジミの確認数（モニタリング調査）</li> <li>在来種保護のための啓発活動及び連携した取り組み状況</li> <li>日常の調査、点検、補修実施状況</li> <li>検討状況</li> <li>不法耕作改善面積</li> <li>ゴミ投棄防止の啓発・美化活動での関係行政機関との連携状況</li> </ul>	指標3-1：琵琶湖の固有性および歴史・文化の多様性の価値が保全されているか（S, I） A ・琵琶湖固有種の生息種数 ・個体数のポイント化（全体評価としてはRDBのカテゴリー別点数化） 指標3-2：氾濫原環境の特性および歴史・文化の多様性の価値が保全されているか（S, I） A ・氾濫原植物の生育種数、 ・株数の点数化 指標4-1：生態系・生物群集多様性の維持・回復に貢献しているか（S） B ・保全すべき生態系・生物群集のリストアップ ・保全すべき生態系・生物群集の現状点数化 指標4-2：種多様性を損なわず維持・回復に貢献しているか（S） C ・絶滅危惧種、希少種保全の現状の把握と保全手法の評価 指標4-3：遺伝的多様性を損なわず維持・回復に貢献しているか（S） C ・遺伝的多様性保全の現状把握と保全手法の評価 指標4-4：生物多様性条約・ラムサール条約を遵守しているか（P） D ・指針・ガイドラインに沿っているかどうかの点数化 B ・予防的アプローチを含む生物多様性の保全戦略策定 指標4-5：外来種対策が効果的に実施されているか（S, P, I） A ・外来種の現状把握と対策の必要箇所の選定ができていないか A ・駆除対策・予防的処置の実施をしているか A ・外来種問題の啓発が十分に行なわれているか
	5. 河川の連続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>水辺や河原の保全・再生</li> <li>魚がのびやすい川への再生</li> <li>水域と陸域との連続性の確保と修復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンド・たまり・干潟の整備（モニタリング調査）</li> <li>河岸の切り下げ（モニタリング調査）</li> <li>ヨシ原の切り下げ（モニタリング調査）</li> <li>堰・段差工改善箇所数、連続延長（モニタリング調査）</li> </ul>	指標2-1：大阪湾-大川・新淀川-淀川が確保されているか（S, I） B ・過去に大阪湾-大川・新淀川-淀川を回遊していた魚類の（各類型毎）種数、個体数の点数化 D ・大川・新淀川の塩分濃度の点数化 D ・大川・新淀川の河床底質の点数化 指標2-2：大阪湾-神崎川-猪名川が確保されているか（S, I） B ・過去に大阪湾-神崎川-猪名川を回遊していた魚類の（各類型毎）種数、個体数の点数化 D ・大阪湾-神崎川-猪名川の河床底質の点数化 指標2-3：横断構造物（貯水ダム・砂防ダム・井堰など）による遮断対策（S, I） C ・各横断構造物による連続性度合いの点数化 A ・各河川の本横断構造物に対する現状改善進捗度 指標2-4：本川-支川間の連続性が確保されているか（S, I） C ・現状評価地図の作成 C ・連続性の好適度の点数化 A ・各河川の本支川に対する現状改善進捗度 指標2-5：琵琶湖-内湖・流入河川間の連続性が確保されているか（S, I） A ・琵琶湖-内湖を回遊する魚類の各類型の種数 D ・個体数の点数化 （例：琵琶湖-流入河川を回遊する魚類の各類型の種数、個体数の点数化） 指標2-6：湖岸-湖棚-湖棚崖-湖底斜面の連続性が確保されているか（S, I） C ・全湖岸線に対する人工湖岸の割合 C ・人工湖岸の類型化による評価
	6. 川本来のダイナミズムの再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>水位変動リズムの回復</li> <li>河川環境の保全・再生のための流量の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>淀川大堰試行操作実施状況</li> <li>洗堰試行操作実施状況</li> <li>既設ダムにおける弾力的管理試験状況</li> <li>代表地点における流況</li> <li>検討状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水位操作の改善に向けた取り組み状況</li> <li>琵琶湖における水位低下緩和方策の検討状況</li> <li>既設ダムにおける弾力的運用等の検討状況</li> <li>流水の正常な機能を維持するために必要な流量の確保状況</li> <li>適切な水量の検討状況</li> </ul>

※検討途上の整理

「流域委員会提示の指標」欄のA・B・C・Dは、それぞれ次の事項を表す。  
 D：進め方の確認内容と思われる等主旨が不明確なもの  
 C：指標として具体性を今後もたせる必要があると思われるもの  
 B：現在保有していないまたは、今後測定の手配のないデータと思われるもの  
 A：特に問題はないと思われるもの

第84回淀川水系流域委員会  
 平成21年3月16日（月）  
 河川管理者資料

施策項目	評価項目	具体的な点検事項の例	点検シートに記述する内容	
7. 流域の視点に立った水循環・物質循環系の構築	○流域対策と連携した水質の保全 ○土砂移動の連続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>琵琶湖・淀川流域水質管理協議会（仮称）設立に向けた検討状況</li> <li>琵琶湖の水質保全対策の取り組み状況</li> <li>河川の水質保全対策の取り組み状況</li> <li>ダム貯水池の水質保全対策の取り組み状況</li> <li>既設ダムにおける土砂移動の連続性確保の取り組み状況</li> <li>砂防施設における土砂移動の連続性確保の取り組み状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の設立状況</li> <li>南湖の再生プロジェクト連携状況</li> <li>セタンジミの確認数(モニタリング調査)</li> <li>水質基準の達成状況</li> <li>貯水池水質保全対策の実施状況</li> <li>土砂管理の検討状況</li> <li>土砂を下流に流せる砂防堰堤の設置状況</li> </ul>	
	○モニタリングの実施・公表 ○生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した工事の施工 ○関係機関との連携による河川環境や景観の保全・再生 ○河川管理者以外の者が管理する施設に対する働きかけ ○河川環境の保全と再生のための人材育成 ○流域管理に向けた環境情報に関する調査研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「多自然川づくり」の評価の実施状況</li> <li>河川環境のモニタリングの実施状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. と同じ</li> <li>5. と同じ</li> <li>河川環境モニタリングの実施状況</li> <li>河川改修工事における環境配慮実施状況</li> <li>河川管理者以外の者が管理する施設への働きかけの状況</li> <li>河川環境の保全再生に関する職員研修開催数</li> <li>調査研究の状況</li> </ul>	
治水・防災	☆淀川水系における治水・防災対策	9. 危機管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で守る（情報伝達、避難体制整備）とした、自助意識促進のための取り組み状況</li> <li>みんなで守る（水防活動、河川管理施設運用）とした、共助の取り組み状況</li> <li>地域で守る（まちづくり、地域整備）とした、公助の取り組み状況</li> <li>災害対応プログラムの策定状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水害に強いまちづくり協議会実施状況</li> <li>ハザードマップの作成状況</li> <li>まるごとまちごとHMの実施市町村数</li> <li>水防拠点、防災ステーションの整備状況</li> <li>水害に強いまちづくり協議会実施状況</li> <li>災害対応プログラムの作成状況</li> </ul>
		10. 堤防強化の実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>堤防強化対策整備延長</li> <li>高規格堤防整備状況（延長）</li> </ul>
		11. 川の中で洪水を安全に流下させるための対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>淀川水系における本支川・上下流バランスの確保状況</li> <li>河川整備の進捗による河道の疎通能力の向上状況</li> <li>ダム等による洪水流量の低減状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備状況</li> <li>疎通能力</li> <li>氾濫想定区域（面積）</li> </ul>
		12. 高規格堤防（スーパー堤防）の整備		<ul style="list-style-type: none"> <li>高規格堤防整備状況（延長）【再掲】</li> </ul>
		13. 土砂対策 14. 既設ダム等の運用検討		<ul style="list-style-type: none"> <li>砂防堰堤及び山腹工の整備進捗状況</li> <li>既設ダムの再編、運用等の検討</li> </ul>
15. 高潮対策			<ul style="list-style-type: none"> <li>高潮対策の進捗・検討状況</li> </ul>	
16. 地震・津波対策	○地震対策 ○津波対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>河川管理施設の耐震対策実施状況</li> <li>津波ハザードマップ作成支援状況</li> <li>津波情報提供設備の設置状況</li> </ul>	

流域委員会提示の指標
指標5-1：水質負荷と環境影響についての流域的な現状把握ができていないか（S,P） D D D D 指標5-2：水質総量規制の制度や対策の計画を立案できていないか（P） A 指標5-3：流域視点による水質対策を実現しているか（I） C 指標6-1：流域の土砂生産・移動・堆積の実態が評価されているか（S） B 指標6-2：流域に土砂の受け入れ準備ができていないか（P） C 指標6-3：総合土砂管理の評価方法の確立と実施（P,I） C B
指標7-1：各流域の環境の課題と目標が整理されていないか（S） B 指標7-2：環境影響評価の項目に流域的な要素を含んでいないか（P） D 指標7-3：環境影響評価に長期的な環境コストを検討しているか（P） D 指標6-1：環境への影響に対する対策を行なう仕組みは適切に実行されているか C A 指標6-2：対策事業の進捗率 C 指標6-3：対策事業の効果はI
A 指標1-1：ハザードマップ作成の進捗S 指標1-2：災害体験者から災害時の状況を聞き取り及びその情報を発信の進捗P A 指標1-3：地下空間の利用者及び管理者への情報伝達体制整備の進捗P A 指標1-4：浸水実績及び想定表示看板設置の進捗S A 指標1-5：災害時要援護者に配慮した避難勧告・指示の発令視点の明確化及び周知体制整備の進捗P A 指標1-6：自治体、水防団、マスメディア等との情報共有のための情報伝達体制の基盤整備の進捗S A 指標1-7：水防団の高齢化に対する支援の進捗P A 指標1-8：水防拠点整備の進捗S A 指標2-1：洪水氾濫時被害軽減のための土地利用規制・誘導施策の進捗S A 指標2-2：公共施設の耐水化の進捗S B 指標2-3：流域における保水・貯留機能確保の進捗S 指標2-4：河川整備計画と都市計画との調整の進捗S
A 指標3-1：HWL以下、浸透、洗掘対策実施済み延長S A 指標3-2：堤防天端以下、浸透、洗掘対策実施済み延長S A 指標3-3：堤防天端舗装実施済み延長S A 指標3-4：堤防裏法補強（シート張、ブロックマット敷設）実施済み延長S A 指標3-5：堤防裏法洗掘防止対策実施済み延長S A 指標3-6：スーパー堤防実施済み延長S D 指標3-7：桜堤モデル事業実施済み延長S A 指標3-8：樋門・樋管の改善措置の進捗S A 指標3-9：耐震補強の進捗S
D 指標4-1：昭和28年13号台風実績降雨、実績降雨×1.2、実績降雨×1.5、実績降雨×2.0における越水及びHWL超過延長の減少S B 指標5-1：人命（地震被害では出していない。仮定をおけば算出可能）I B 指標5-2：床上浸水戸数（面積）I B 指標5-3：床上浸水戸数（面積） B 指標5-4：資産I
A 指標3-6：スーパー堤防実施済み延長S

